空室情報

●コレクティブハウス大泉学園

1R　12.96㎡＋コモンスペース　家賃48,000円／月
1K　19.44㎡＋コモンスペース　家賃56,000円／月
1K　19.44㎡＋コモンスペース　家賃56,000円／月

所在地：練馬区大泉学園町8丁目
最寄駅：西武池袋線 大泉学園駅より バス10分 バス停より徒歩5～8分
東武東上線 成増駅より バス25分 バス停より徒歩5～8分
東武東上線 和光市駅より 自転車20分

居住人数：15名程度
共益費など：居住者組合で決めて運営、居住者で分担

大泉学園町の気に入っているところ。
その1：バス通りの桜並木
桜が満開の時期は本当にきれいです。
その2：みどりが多い
ご近所を散歩していると花や木の香りを感じることも。近くに大きな公園もあります。
その3：新鮮な野菜が手軽に買える
農家さんの直売所がご近所にあるほか、自転車があれば農協の販売所にもすぐ行けます。
ぜひ一度いらしてみてください!

お知らせ

居住者のブログ・FB・インスタグラム
実際の暮らしの様子はコチラから

スガモフラット
https://blog.goo.ne.jp/sugamos2014/
https://www.instagram.com/sugamons212/
コレクティブハウス聖蹟
https://www.facebook.com/ch.seiseki/
コレクティブハウス大泉学園
http://blog.livedoor.jp/ch4_oizumi/
タウンコレクティブ南小岩
https://www.facebook.com/tc.koiwa/
https://www.instagram.com/minami_koiwa
エコダハウス
https://www.instagram.com/ekoda_house/
コレクティブハウス@CHC
https://www.instagram.com/collectivehousing.jp/

その他の空室情報はこちら

毎週木曜午後は OPEN DAY

会員のみなさんにお気軽にお越しいただけるよう、毎週木曜午後をオフィスオープンデイとしています。事務局メンバーがおりますので、お話をしながら、関連書籍や資料などもご覧いただけます。近くにお越しの際にはぜひお立ち寄りください。

※事前に事務局までご一報ください。
TEL: 080-6660-1143 / E-mail : info@chc.or.jp

Facebookページも公開中！

第1回多古町「ぽんぽこマルシェ」レポート

次回は2月20(土)～ 21(日)開催の予定です

12月5～6日、コレクティブハウス本町田があるまちのもり本町田で、農産物のマルシェ＋多古町PRイベントが開催されました。

仕掛け人は、CHC会員で多古町移住コーディネーターでもあり、一般社団法人古民家活用ぽんぽこ推進協議会（通称ぽんぽこ団）の代表 並木恵祐さん。有名な多古米の新米をはじめ、根菜類から葉物、たまご、甘酒まで【ぽんぽこ号】に積み込んで、まちのもり本町田のアプローチにてテント販売を行いました。今年は台風がなかった分野菜の出来がよく、しかし採れ過ぎのため低価格だそうです（…）。

マルシェで手に入れた食材でコモンミール豚汁をつくりました。やはり大量につくる豚汁はおいしいですね。多古町の大根、人参、里芋、さつまいもが味わいの元。農家さん、ありがとうございました。次回は2月開催です！

「投稿コーナー」投稿募集

「これこれ新聞」では、話題にしてほしい記事を読者の皆様より募集しています。投稿はこちら↓
ペンネームを添えて、collecollego@gmail.com まで。

「これこれ新聞」編集サポーター募集!

これこれ新聞編集部では写真を撮ったり、記事を書いたり、アイディアを出してくださる、サポーターを募集しています。
collecollego@gmail.comまでご連絡ください。

【編集後記】2021年の幕開けです。今年は丑年。丑年は働き者の牛にちなんで「耐える」「これから発展する前触れ・芽が出る」年として、結果につながる道をコツコツと積み上げていく時期だそうです。コロナ禍でも、できることを地道に進めていきたいですね。（編集部員K）

発行／ NPOコレクティブハウジング社（CHC）　ホームページ https://www.chc.or.jp/
〒194-0032 東京都町田市本町田1143-1 まちのもり本町田2202
TEL : 080-6660-1143　E-mail: info@chc.or.jp

2021/2/3 第39号

隔月刊 CHC これこれ新聞

私にとってのコレクティブハウス：　何もしたくない日は部屋から一歩も出ない。廊下に出て誰かに会えばお喋りをする。屋上に集まって満月を見る。みんなが通るところに花を植え、収穫した野菜を分け合って食べる。ミールがある日の夕方は玄関に入るといい匂いがする。何か困ったときにはCHCに相談する。自分だけのためではないハウスのみんなとの生活は、いろんなことが程よく混ざり合ってそれが居心地の良い日常になっている。（CH大泉学園居住者N）

「まちのもり本町田」のキッズデザイン賞　受賞記念企画!

コレクティブハウスの暮らし大賞 特集号!

2020年10月、折しもCHC設立20周年を迎えるタイミングで「まちのもり本町田」がキッズデザイン賞「優秀賞 少子化対策担当大臣賞」を受賞しました。これは今までコレクティブハウスの暮らしの価値を育んでこられた全ての居住者と事業主の皆さま、コレクティブハウジングの普及を支えてきてくださった皆さま、CHCメンバー全員にいただいた賞だと考えています。

これを機に皆さんと喜びを分かち合い、今までを振り返ったり、未来に向けてメッセージを発信する機会としたいと思い、「第0回　コレクティブハウスの暮らし大賞」としてコレクティブハウス住人からエッセイや写真作品などを募集しました。今号のこれこれ新聞はその受賞作の一部を紹介します。

文章・エッセイ部門
大賞

「花火の夜のスープカレー」 コレクティブハウス聖蹟 Eさん

十一月七日の夜のことです。

日が暮れて間もない五時半ちょっと前、「極秘情報」と前置きをしたメールが届きました。コレクティブハウス聖蹟の居住者全員に届くメール宛てに「今から十分後に花火が上がります。ハウスの屋上からは見えません。いろは坂に見に行く方は今すぐ集合してください」と。

突然だったので、集まったのはメールをくれたTさんと私、それにハウスの子供たちが四人だけでした。車の多い道を行くので、私は五歳の子供二人と手をつなぎ、歩き始めました。

私は今年の夏に越してきたばかりの五十五歳の女性です。独身で一人暮らし、もう何年も花火なんて見に行くこともありませんでした。いつも遠くの花火の音を聞きながら、部屋の中でひとりぼっちでいたのに、子供と手をつないで花火を見に行くだなんて、なんだか信じられませんでした。

「わあ、花火だ!」「すごいすごい!」

密を避けるために予告なしで上げられた花火をみんなで見て、一緒に大声を出し、はしゃぐ。たった数分のことでしたが、数ヶ月前までの一人暮らしでは決して味わえない、とても豊かな時間でした。大きな花火が上がると、「わっ、こっちに来る!」と感受性の豊かなSちゃんがぎゅっと手を握りしめるので、写真を撮ることはできませんでしたが、写真より、私の手を握ってくれる子供の存在が嬉しかった。（写真は後でTさんが送ってくれました）私には子供はいませんし、子供と一緒に暮らすことが自分の人生に起こるなんて、想像もしていませんでしたから。

部屋に戻り、ぼんやり花火の余韻に浸っていると、突然ピンポンピンポンと、けたたましく呼び鈴が鳴りました。扉を開けると、さっきまで一緒にいた五歳のHちゃんが立っていました。

「ちょっと来て」

なんだか切羽詰まった顔をしているので、どうしたの、と訊くと、「お父さんを手伝って」と訴えます。「お父さんがひとりでミールを作ってて、さっきみんなに手伝ってってメールをしたんだけど、誰も来ないの。お父さん困ってるから、助けてほしいんだ」

「わかった」私は即答しました。「今、エプロンつけるからちょっと待って」

実はHちゃんのお父さんからのメールには気づいていました。でも、ちょうど花火を見ている間に送られていたので、時間もたっているし、もう誰か行っただろうと思っていたのです。

Hちゃんがお父さんのために私を呼びに来てくれた。大人として、これに応えなければと思いました。Hちゃんは、私ならお父さんを助けてくれると見込んで、助けを求めてくれたのですから。

「手伝いに来ましたよ!」

そう言ってコモンキッチンに走り込むと、お父さんは驚き、そしてとても嬉しそうに笑ってくれました。

この日のメニューはスープカレー。チキン、じゃがいも、にんじん、かぼちゃ、アスパラガスにエノキダケ、蓮根、ブロッコリー。たっぷりの野菜は全て素揚げし、ごはんにはレモンを搾る本格派。テキパキと働くお父さんと私を、Hちゃんはニコニコ見ていました。

子供のいない私が子供と暮らす。親でも親戚でもない、同じハウスの住人として。そのことの意味は、正直まだよくわかりません。

けれどもいつか、ここを出るとき、私はきっと思い出すでしょう。今夜のこと。Sちゃんと手を繋ぎ、みんなと一緒に見た花火の美しかったこと。Hちゃんに頼まれ、一緒に作ったスープカレーの美味しかったこと。一緒に過ごした時間の、とても豊かで楽しかったことを。

これこれ新聞　vol.39
定価200円（税込）
定期購読2,000円（年間／送料別）

（前ページから続く）**大賞「花火の夜のスープカレー」【審査員評】**

「花火の夜のスープカレー」は、テンポや構成が良く、話し合いの末満場一致の選出でした。「私」はある夜、子どもたちとの交流を通じて自分が受け取ったものと差し出したものについて豊かな情緒を得るのですが、そのように自分の心と向き合える安定もまた、コレクティブハウスの暮らしから得られるもののひとつなのでしょう。大人が子どもを当たり前に尊重している様がわかるのも、子育て中のわたしにとってうれしいポイントでした。（正会員　野口朋子）

【受賞コメント】

嬉しいです。この賞は花火メールをくださったTさん、一緒に花火を見てくれた四人のこどもたち、スープカレーを作ってくれたKさん、そして日々ハウスで生活を共にしてくれているみんな、私をコレクティブな生活に導いてくれたCHCの皆様、大家さんと一緒に取ったものです。ご褒美のお肉はミールで、みんなと一緒に頂きます。

写真部門賞

「【約5年前】生後1か月の赤ちゃんと白菜の大きさを比べる同い年の大人たち。」

コレクティブハウス聖蹟 Oさん

「【約5年前】生後1か月の赤ちゃんと白菜の大きさを比べる同い年の大人たち。」【審査員評】

この1枚にはたくさんのコレクティブのエッセンスが入っていると思いました。赤ちゃんと白菜を比べてしまうおじさん達の余裕の遊び心、こうやって大人に受け入れられるこどもの幸せな生活、大人と大人、こどもと大人、そして後ろに見えるツリーには人と空間の、それぞれの温かい結びつきが感じられた1枚でした。（正会員　船山眞理子）

【受賞コメント】

この度は第0回コレクティブの暮らし写真部門賞をありがとうございました！この写真を撮ったとき息子はまだ生後20日位で、白菜よりも小さかったです。そんな息子も来年の春には1年生に！コレクティブの皆様にあたたかく見守られて大きくなりました。近いうちに同じ構図で写真を撮りたいと思ってます！

絵画部門賞

「子どもはみんなの宝」

コレクティブハウス聖蹟 Iさん

「子どもはみんなの宝」【審査員評】

お友達かしら、姉弟かしら、姉妹かしら、ハートが仲良しを表しているのかしら、ケーキに“らぶらぶ”しているハートかしら、不思議な雰囲気を漂わせた絵。じーとみていると、ほのぼのとしつつも真剣な表情は、実に印象に残る絵です。こんな風に被写体に愛情を注いだ絵が描ける人はきっと幸福度も高いのでしょう。写真では表せない絵の力が、そんなことを感じさせる1枚です。（監事　渡邉喜代美）

【受賞コメント】

1990年代に、公園デビューという言葉が流行りました。
ヨチヨチ歩きの子供を連れて公園に行き、そこにいるママさん達の仲間に入っていくのは悩みの多いものでした。
コレクティブの暮らしの中では、様々な年齢の人たちが周りにいて幸せなところです。

「忘れられない思い出」【審査員評】

「忘れられない思い出」は、何と言っても「ぼくは、ハウスにすんでいるからだいじょうぶ。」が決め手。そうです、コレクティブハウジングは「学童後の子どもの自立」という社会課題もさらっと大丈夫にしてくれるのです。「ぼく」が「ハウス」を拠点に力いっぱい成長していく姿が浮かんできます。最強の説得力でした。（正会員　野口朋子）

【受賞コメント】

まさかの受賞にビックリしました。ありがとうございます。コレクティブハウスに住む皆様が息子としっかり向き合い接してくださったことで、子供なりに親以外の大人のことも信頼できたからこそ出てきた言葉「ハウスに住んでいるから大丈夫」。
そんなステキな暮らしであることを伝えてくれた息子のエピソードをご紹介でき、選んで頂けたことを嬉しく思います。見守られて大きくなりました。

文章・エッセイ部門賞

「忘れられない思い出」

コレクティブハウス聖蹟 インコさん

息子が小学1年時の学童の保護者会。
子供たちにアンケートを実施した用紙が配られた。
そこには、息子のご名答！！
（もう8年も前のことなので、アンケートの質問の文言は・・・）

・学童から帰って一人でお留守番はできますか？
　⇒ぼくは、ハウスにすんでいるからだいじょうぶ。
・おうちの鍵を自分で開けることができますか？
　⇒ぼくは、ハウスにすんでいるからだいじょうぶ。
・自分の家の電話番号は覚えていますか？
　⇒ぼくは、ハウスにすんでいるからだいじょうぶ。
・お留守番をしているときに電話がかかってきたらどうしますか？
　⇒ぼくは、ハウスにすんでいるからだいじょうぶ。
・お留守番をしているときに誰かが訪ねてきたらどうしますか？
　⇒ぼくは、ハウスにすんでいるからだいじょうぶ。
・困ったときに助けを求めることはできますか？
　⇒ぼくは、ハウスにすんでいるからだいじょうぶ。
・近所に知り合いの人はいますか？
　⇒ぼくは、ハウスにすんでいるからだいじょうぶ。

そこに書かれていた質問に対する答えは、すべて同じ。
『ぼくは、ハウスにすんでいるからだいじょうぶ。』
面白すぎて思わず声を出して笑ってしまったけれど、息子は、コレクティブハウスに住んでいるから安心！って思っているんだなぁ。

いやー、なんて素晴らしいんだ ！！
コレクティブハウスに住んで本当に良かった！

と思った瞬間、
「えっ！?ハウスって???お宅は、まさか子供を犬小屋に・・・」
隣の初めましてのお母さんの驚いた表情とつぶやきが・・・
「あ、違いますよ！！ハウスってコレクティブハウスという名前のマンションの通称です！！」

確かに、これはコレクティブハウスのことを知らない人が見たら大変な誤解を招くではないか。
友人や学童の職員さんが、このやり取りを笑ってくれて良かった一

今では、地域でも「ハウス」で通じることが増えてきましたよ。
『コレクティブハウス』もっと知ってもらえるように広報を頑張ろうっと！

らぶ♡ふぁみ賞

「庭で水遊び」

コレクティブハウス聖蹟 ヤワタさん

2020年5月13日
なんてことない、陽光眩しい午後のひとコマ。
私は出産直後でおこもり生活中。
世間では緊急事態宣言が発令され、子供たちも自粛生活を余儀なくされていた頃。
子供たちの、そのありあまる体力をどう消化するのかは、おそらく各家庭で悩みのタネであったと思います。
とにかく元気。でも、外出はできない。
たまります。いろいろと。
そんな日々の中、ハウスの子供たちは庭でいわゆる３密を避けて水遊び。
先行きの見えない不安な生活が続く中、子供たちの笑顔、弾んだ声、いいお天気にホースの水でできた小さな虹。
ほんのひとときだけど、さまざまな不安を忘れてほっとした瞬間の写真です。
なにか示し合わせた訳でもなくハウスで起こる、なんてことない日常のありがたさを感じます。

第0回　コレクティブハウスの暮らし大賞　募集内容および審査概要

テーマ：子どもがいるコレクティブハウスの暮らし
募集期間：2020年10月3日～ 10月31日
作品募集範囲：スガモフラット、CH聖蹟、CH大泉学園の居住者及び元居住者
応募総数：26点
　○写真部門（19作品）
　○文章・エッセイ部門（6作品）
　○絵画部門　（1作品）

審査方法：応募者の名前を伏せた状態で、CHかんかん森、スガモフラット、CH聖蹟、CH大泉学園、CH元総社コモンズ、CH本町田、エコダハウス、TC南小岩の居住者・元居住者および外部審査員5名がWebフォームで投票（投票期間11月21日～ 11月30日、投票者総数44人）の結果を受け、CHC監事2名及び正会員2名の計4名で最終審査会を開催し、大賞及び部門賞を決定。 加えて外部審査員である「らぶ♡ふぁみ」さんに 特別賞「らぶ♡ふぁみ賞」を選んでいただきました。

※「らぶ♡ふぁみ」は町田市で活動されている子育て支援団体です。